

り便寺通正

令和三年お盆号

神さまと般若心経

欽明天皇の御世、日本に仏教が伝えられて以来、国家安穏・人民平穏のため寺院が建てられました。そのなか「神宮寺」といわれるお寺もあちこちの神社の近くにたてられました。

という神宮寺がありました。教えを喜ばれていると信じ

ことに「空」を説くお経いわれます。

日本の国は神さまたちとで平和が保たれます。

人災・疫病・戦が起きているのでしょうか。

嵯峨天皇と大師



あの伊勢の本宮にも「世義寺」これは日本の神さまが仏教のられたからです。

つまり般若心経を喜ばれると

が鎮まってくださっていること神さまが荒ぶること天災・のです。いま神さまは鎮まっ

嵯峨天皇の御世にもやはり疫病がはやり、天皇は大師のもと一字一礼で般若心経を写経されました。

お盆の行事は神道と仏教がこの国で溶け合ったものです。古い先祖はわれわれのふるさとの神でもあります。

般若心経

空

般若心経とは、一切の苦しみの原因である五蘊（色・受・想・行・識）の空性を説く経典である。この経典は、一切の苦しみの原因である五蘊（色・受・想・行・識）の空性を説く経典である。この経典は、一切の苦しみの原因である五蘊（色・受・想・行・識）の空性を説く経典である。

お墓まいりについて

昔このあたりでは両墓制ということが行われていたようです。

これは「捨墓」と「詣墓」の二種の墓のことをいいます。

捨墓とは文字通り遺体を捨てる場所をいい、人が死ねばそこに遺体を埋葬してそれきりです。それを捨てる」と表現します。

詣墓は墓標を立て、香や花・水を供えて故人を偲ぶ場所です。そこには遺体はありません。つまりそこに詣ることで先祖の魂とふれあうことが出来る場所です。時代が進み合理化されいまの墓のようになっていますが、墓参とはご先祖の魂に触れにいくということとは変わりません。

